

○ 疲れが出てくるこれからの一か月

5月の連休も終わり、1学期も半ばの時期となりました。これから一か月は、各学年とも慌ただしい学校生活が続きます。まず3年生は、明日から修学旅行(5/20~22)に出かけます。また1年生は、6月初めに宿泊を伴う野外活動「自然教室」(6/7~9)が行われ、その間に中間テスト(6/1~2)も実施されます。2年生においては、校外での学習こそありませんが、人権学習や2学期に予定の職場体験学習の準備など、様々な取組があることには他学年と変わりありません。



このように、過密なスケジュールが続くと、体調を崩したり精神的にしんどくなったりする生徒が出てきます。学校の方でも気を配ってまいります。どうかご家庭でお気づきのことや、何か普段と違う様子などが生徒にありましたら、学校の方にご相談ください。

よろしくお祈りいたします。

○ 学校の役割

各学校には、教職員の心身の健康管理について、指摘を受けたり、相談に乗っていただいたりする「産業医」といわれる開業医がいます。これは市教育委員会事業の中で実施されているもので、本校は昨年に引き続き菰野町で開業されているお医者さんにお世話になっています。先日、本年度もお世話になることになったため、その開業医さんに対し、教育委員会担当者とともにご挨拶に行ってきました。

一通りの挨拶を終えた後、雑談の中で今学校が抱える課題についていくつか話をしました。その過程で、私から、心身ともにたくましい生徒を育てるため鍛えることは大切だけど、昨今、鍛え方が難しくなってきたことを話しますと、その開業医さんはこのように言われました。

子どもたちは、学校生活などの様々な体験の中で、困難にぶつかったり、努力しても上手くいかなかったりするなど、いわゆる「転ぶ」ものではないでしょうか。その転んだときに、どのようにして立ち上がるかを教えたり支えたりするのが教育ではないかと思えます。今、学校では、どのように立ち上がるかよりも、転ばないようにするためにはどうするか、心血注がれることが多いのではないのでしょうか。

学校は、子どもたちが安心して学べる場でなくてはなりません。そこで、私たち教師は、事故やいじめ等がないよう、細心の注意を払って見守ったり指導したりしています。それは、子どもたちが、体や心に取り返しのつかないような痛手を被ってはならないからに他ありません。

しかし、子どもたちであろうと大人であろうと、その開業医さんがおっしゃられるような生活の中で「転ぶ」ことは当然あり得ることです。そのような時に、再び立ち上がり、たくましく生きていく力を身に付けていくことは大切なことであり、それを支援するのが学校教育における大切な役割です。

このご指摘を学校に対する励ましととらえ、引き続き安心・安全な学ぶ環境を構築していきたいと思えます。そして、子どもたちが転んだときには、温かく励まし、粘り強く物ごとに取り組めるよう、今後も学校全体で努力していきたいと思えます。



※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。